様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23　年　5　月　27　日現在

機関番号：２４７０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００７～２０１０
課題番号：１９５２０２５１
研究課題名（和文）　古典期アテーナイ演劇におけるジェンダー描出の研究

研究課題名（英文）A Study of Gender Representation in Athenian Dramas in the Classical Period

研究代表者
西村　賀子（NISHIMURA YOSHIKO）
和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授
研究者番号：３０１８０６４９

研究成果の概要（和文）：
今回の研究のおもな成果は、アリストパネースの「女もの」３篇の喜劇におけるジェンダー描出についてである。これについて、服装倒錯と言語とステレオタイプ表現を中心にした分析を行い、その成果を 2009 年に「ギリシア喜劇全集別巻」（岩波書店）で発表した。その内容を要約すると、アリストパネースのジェンダー表現はまず服装倒錯という手段によって視覚的観点から見て非常に顕著なしかたで表現される。また言語面ではとくに、猥雑な語あるいは語句の使用の有無や使用状況などに明らかな男女差が設定されている。そして女は酒を好み、食糧貯蔵庫から食べ物や飲み物をひそかに盗み出す、セックスを好むなどといったお決まりのステレオタイプ表現が頻出し、ひねりを加えたパラドクシカルな描出が観客の笑いを誘うことになる。

研究成果の概要（英文）：
The main findings of my research concern about gender representation in Aristophanes' *Lysistrate*, *Thesmophoriazusae*, and *Ecclesiazusae*. These comedies were analyzed from the viewpoint of such components as transvestism, language, and stereotyped representation. The result of the research was published in 2009. It claimed that the gender representation of Aristophanes features cross-dressing, which is visually outstanding and clear. In terms of language, what is to be focused on is obscene words and phrases: use and non-use, the conditions of their use, and the sex of a speaker are important. Lastly the frequent occurrence of stereo-typed representation induces burst of laughter of the audience. They are described not straight, simple way but in a paradoxical, sophisticated way.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	700,000	210,000	910,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
２００９年度	400,000	120,000	520,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：ヨーロッパ系文学
科研費の分科・細目：文学一般・西洋古典
キーワード：文学・古代ギリシア・演劇・悲劇・喜劇・ジェンダー

１．研究開始当初の背景

（１）平成７～９年度に「古代ギリシア文学、とりわけ叙事詩と悲劇における女性像」という研究課題で科学研究費補助を受けたが、叙事詩研究の拡大発展は著しく、関連文献は膨大かつ年々増え続けるという状況にある。このような学界の実情により、当時はこの課題の一部である叙事詩にしか焦点を当てることができなかった。そこで今回は、従来の研究の趣旨を踏まえつつ、その不十分さを補うような研究を目指した。

（２）ジェンダーをめぐる研究は日本国内でもアメリカやヨーロッパでもこの四半世紀の間に、著しい進展を示してきた。しかしながら、政治・経済・社会などの社会科学系の分野での研究が圧倒的に多いのが実情である。文学の領域においてもジェンダーはたしかに研究対象となっていないわけではないが、日本ではその研究者の数はあまり多くなく、またイギリスやドイツ、フランス、中国、日本などの近・現代文学を対象とするものに偏る傾向が見られる。しかしアメリカを中心としてヨーロッパ古代文学におけるジェンダー研究はさかんに行われているのであるが、日本では男性研究者が圧倒的多数を占めるという事情も相俟って、その紹介すらおこなわれていない。したがって古代ギリシア文学におけるジェンダー研究の成果はわが国においては著しく少ない。

２．研究の目的

上記のような研究開始時点での背景を鑑み、日本における研究状況のいわば空白地帯を埋める作業をしたいと考えた。

本研究は古典期アテーナイ演劇つまりギリシア悲劇・喜劇は叙事詩から発展した。古典期は明らかに叙事詩の時代とは政治・経済・社会的状況が異なっている。古典期のアテーナイ演劇におけるジェンダー描出がどのようなものであったかについて、平成７～９年度の科学研究費補助研究課題で明らかにした叙事詩におけるそれと比較しながら、女性／男性の対称軸の変貌をも視野におきながら、多角的・包括的視点のもとに解明することを研究目的とした。

３．研究の方法

方法としては、まず、悲劇と喜劇の代表的な作品を対象とすることがあげられる。そして、文献学的方法を踏まえつつ読むこと、ジェンダーの視点から作品分析を行うことである。とくに喜劇に関してはアテーナイ古典期の喜劇の黄金時代を築いた古喜劇作家アリストパネースの「女もの」と呼ばれる三篇の喜劇、つまり『リューシストラテー』、『テ

スモポリアズーサイ（テスモポリア祭を祝う女たち)』、『エックレーシアズーサイ（女の議会)』を中心に取り上げる。前５世紀アテーナイの政治情勢や社会的環境の分析のみならず文学的・歴史的精査などをも含めた先行研究を包括し、そこにジェンダーの概念からの分析を取り込んでテクストを読むという方法をとる。

４．研究成果

（１）アリストパネースの「女もの」３篇の喜劇、すなわち『リューシストラテー』、『テスモポリアズーサイ（テスモポリア祭を営む女たち)』、『エックレーシアズーサイ（女の議会)』におけるジェンダー描出については、服装倒錯と言語とステレオタイプ表現を中心にした分析をおこなった。その成果は 2009 年に「ギリシア喜劇全集別巻」(岩波書店）で発表した。すなわち、アリストパネースのジェンダー表現はまず、服装倒錯という手段によって視覚的観点から見て非常に顕著なしかたで表現される。そして言語面ではとくに、猥雑な語あるいは語句の使用の有無や使用状況などに明らかな男女差が設定されている。そして女は酒を好み、食糧貯蔵庫から食べ物や飲み物をひそかに盗み出す、セックスを好むなどといったお決まりのステレオタイプ表現が頻出し、ひねりを加えたパラドクシカルな描出が観客の笑いを誘うことになる。

（２）アリストパネースのその他の喜劇作品８篇（『アカルナイの人々』、『騎士』、『平和』、『雲』、『蛙』、『蜂』、『鳥』、『プルートス』）におけるジェンダーについては、その描出は上記３篇と比較すると顕著ではないが、（１）であげた分析との関連を考慮しながら、また政治的・社会的コンテクストという作品のバックグラウンドを重視しながら研究を進めているところである。「女もの」とは異なるこれら諸作品の性質上、その分析はステレオタイプ表現が中心になっている。

（３）もっかのところは原稿締め切りの関係上、喜劇断片に取り組んでいる。今年度前半に原典からの翻訳の原稿を完成させ、来年度中の刊行をめざしている。喜劇断片は量が膨大であり、断片という資料の性格上、しばしばその断片の前後関係が不明であるため、そのジェンダー分析は困難であるが、アリストパネース的なジェンダー意識や表現が他のマイナーな喜劇作家たちの断片にも出現しているかどうかが問題となる。その意味で断片研究はアリストパネースの独自性を明確化することになる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

① 西村賀子、古典の受容――ルネサンスにおける発見、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要、査読有、第７巻、2011、9-16。

② 西村賀子、西洋古典学におけるジェンダー研究（２）、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要、査読有、第５巻、2009、1-8。

③ 西村賀子、西洋古典学におけるジェンダー研究（１）、和歌山県立医科大学保健看護学部紀要、査読有、2008、第４巻、11-18。

〔学会発表〕（計４件）

① 西村賀子、２０世紀末の『オデュッセイア』の受容――デレク・ウォルコット、京都大学西洋古典文学研究会、2010 年 12 月 19 日、京都大学文学部。

② 西村賀子、未来を拓くために古典の過去を振り返る、国際高等研究所、近代精神と古典解釈プロジェクト、2010 年 11 月 27 日、国際高等研究所。

③ 西村賀子、ミルマン・パリーの遺産、国際高等研究所、近代精神と古典解釈プロジェクト、2008 年 8 月 7 日、国際高等研究所。

④ Yoshiko Nishimura、The Reception of Greek Tragedy in Modern Japan、 The International Conference of the Reception of Greek and Roman Drama in London、 2008 年 6 月 12 日、University College London。

〔図書〕（計３件）

① 西村賀子、中務哲郎、マルティン・チエシュコ、平山晃司、岩波書店、『ギリシア悲劇全集』第９巻、2011 年（予定）、もっか再校段階につき総ページ数未定。

② 西村賀子、久保田忠利、安村典子、岩波書店、『ギリシア悲劇全集』第 4 巻、2009 年、552。

③ 西村賀子、丹下和彦、久保田忠利、中務哲郎、橋本隆夫、野津寛、安村典子、平田松吾、木村健治、マルティン・チエシュコ、佐野好則、岩波書店、『ギリシア悲劇全集』別巻「ギリシア喜劇案内」、2008 年、391。

６．研究組織

(1)研究代表者

西村　賀子（YOSHIKO NISHIMURA）
和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授
研究者番号：
３０１８０６４９